ACQUAPAZZA

SONY ILCE-6300 シリーズ

APSO-A6300
水中ハウジング取扱説明書

お買い上げ頂きまことにありがとうございます。

パッケージ・取扱説明書・保証書は、
一緒にしていつでも取り出せるところに保管してください。

2016　ACQUAPAZZA　Printed in japan
http://acquapazza.jp/

必ずお読みください

●本取扱説明書をよくお読みになり、製品仕様、正しい使用法、メンテナンス方法をご理解の上、末永くご利用ください。
（カメラの使用法は、カメラの取扱説明書をお読みください）

●**（重要）**パッチン錠の”ロック”はレバーを確実に押さえて、施錠音を確認すること。
レバーが所定位置になっただけでは、ロックされていない事がある。
また使用中に手などが触れてロックが外れることがある。
その後レバーを開ける力が発生するとパッチン錠が開いてしまう。

それにより水圧がかかっている間は問題無いが水面に出るとカバーが開いてしまう事がある。
（パッチン錠は 3 箇所あるため、1 箇所開いたとしてもカバーが全開にはなり難い）
エキジット時には”パッチン錠が開いていないこと”を目視確認すること。

●防水性を含む全機能を保つためには、お客様ご自身によるご使用前の各種点検、ご使用後のメンテナンス、正しい保管、弊社による定期的なオーバーホールが不可欠です。

●製品としての不具合は、確認した時点で正しく機能するように調整・改修させて頂きますが、本製品の故障・浸水によるカメラ、レンズ、周辺機、機会損失、思い出の喪失、必要とした経費、シャッター・チャンス等の補償は、如何なる場合に於いても致しかねます

●カメラ等、携行品のリスクヘッジが必要な場合、ダイバーズ保険または、量販店で“水漏れ補償”のある保証サービス加入を強くお勧めします

●アクアパッツァ製ハウジングは、耐食アルミ材からの 3D 削り出し加工品です。加工の際に切削目、若干の傷、ムシレがあり得ます。
表面処理時に着色のムラ、泡の痕、色の差などがあり得ます。
それらは画一化された工業製品にはないハンドメイド品の証です。
商品外観のクレームはご容赦ください。

安全のために

アクアパッツァ製品は安全に留意して設計されています。
しかし間違った使い方をすると怪我をすることがあり危険です。

それらを防ぐために次のことを必ず守りましょう。
（これより、この取扱説明書は簡潔に要点を伝えるため敬語を省略しますのでご了承ください）

●取扱説明書を理解し、安全のために注意事項を守る

●浸水の場合にカバーを開く際、中の水分が噴出する事があるので、目などに入らぬ様、周囲に飛散させない様、手が弾かれない様、等、留意して行うこと

● 本製品を子供の手の届くところに放置しないこと
ハウジング落下による怪我やストラップが首に巻き付いて窒息、小さな部品を飲み込むなど、事故の恐れがあるため

●本体とカバーの間に手などを挟まない様注意。

●ハウジング本体の前面にある対物ガラスに衝撃を与えない（割れて怪我をすることがある）

●部品の角が鋭利な場合がある。そこに肌が当たると怪我をする場合があるので扱いに留意すること。

取り扱い上の注意

●アクアパッツァの水中ハウジングは浸水防止のため、デジタルスチルカメラ取り出し口は全機種 2 重 O リング構造になって居ります。
（以下、ハウジング、カメラと略して表す）
出荷時にも厳重な耐圧検査を行っていますが、浸水のリスクから解放されるわけではありません。

●ハウジングを水中に投げ込んだりボートダイビング時などハウジングと一緒にエントリーしてハウジングにダメージを与えないこと

●次の様な場所で使わない
0 度以下、40 度以上の場所
乾いた砂埃等が舞う場所
真空またはそれに近い負圧の場所

●ハウジングの樹脂部分や O リング部に様々な液体を付着させない
（他社グリスやローション、日焼けオイル、リンスなどは中性洗剤で洗い、水流にて除去する）

●ハウジングを落下させない
損傷箇所により防水・耐圧に影響する場合があるので購入したショップ、カスタマーサポートに相談のこと

●飛行機で移動の後は気圧の関係でハウジングのカバーが開きにくくなることがあるので樹脂やビニールでスペーサーとし、カバーが閉まらないように隙間を空けておく事を推奨

●シャッターレバー、フォーカスノブ、ダイアル、押しボタンなどに通常の使用以上に強い力が加わると、それらが壊れることがある
或いはカメラ側が壊れることもあるので、想定以上の力を加えないこと

●搬送時に直接振動を与えない
自動車の荷台などに直に置き振動が長時間続くとネジが緩んだり、打痕、擦り傷などの原因になるので、充分な厚みの緩衝材に包んだり、ショック・プルーフ・ケースにて防ぐ事を推奨

●ダイビング中や終了後、ハウジング内部に、水滴・少量の水などの侵入が確認された場合は使用を中止して弊社カスタマーサポートに連絡ください（カバー開閉時の飛沫は別）

●内蔵ストロボ窓を内側から押さないこと（浸水の恐れがある）

●封印液が付いているネジはユーザーが締めたり緩めたりしないこと

●カバーを外して机上に置いてある時に上から力が加わると、内部構造が破損することがあるのでカバーに力を加えない

●水中でドーム、対物ガラスを無意識にでも押してしまったり、岩などに軽くでも当てると破損することがあります。

●水中ハウジングに入れて使うカメラは大なり小なり傷つき、汚れ、痛む物であることを了承ください。

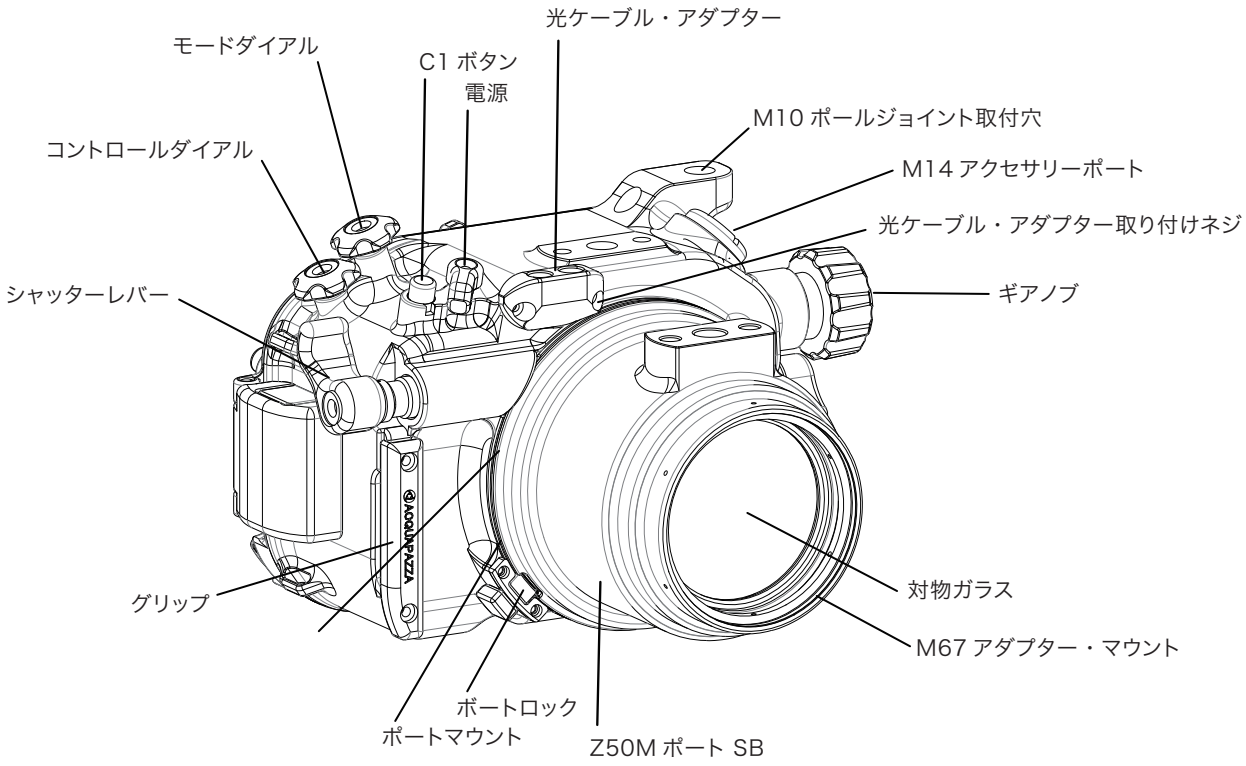
●カラーアルマイトの着色は染料です。鮮やかな色ほど日光で退色します。ずっと日に当てておく等しない様にして下さい。

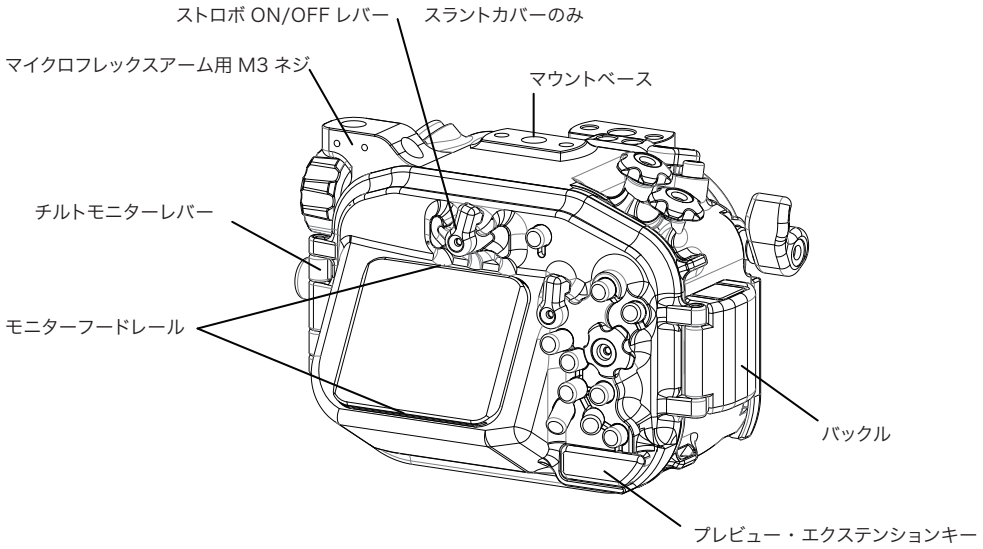
●いつも触るところは擦れて退色します（たまに使われる方は 5 年以上保ちます。毎週使われる方は 1 年ほど、プロの方は半年以内に退色する事があります。）

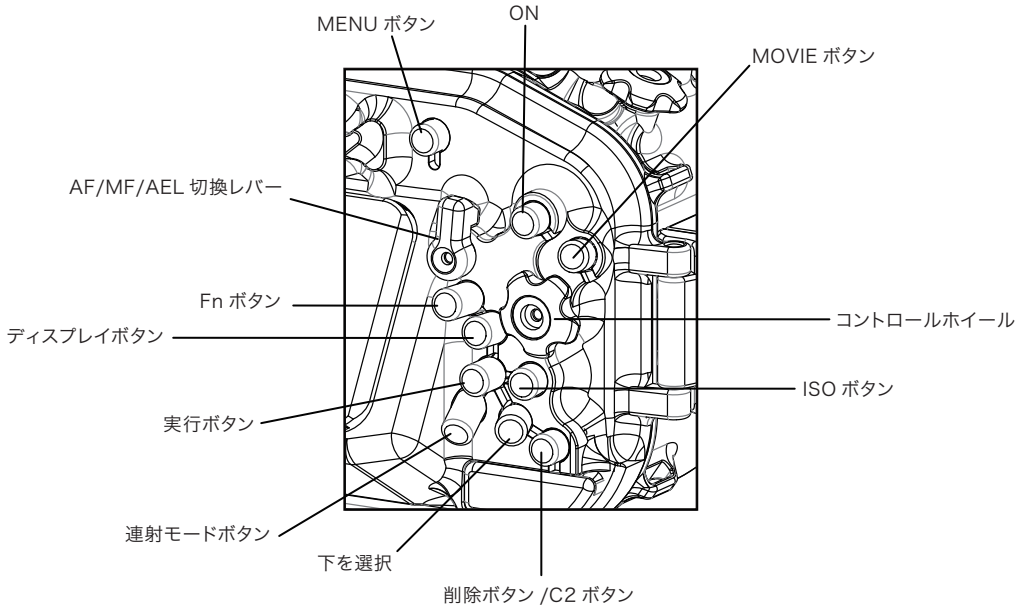
●ハウジングとして、仕様より過酷な環境での使用や、用途以外の使用をしない

●不具合が発覚したら使用せず購入したショップ、弊社カスタマサポートに修理を依頼する

各部の名称


光ケーブル・アダプター
モードダイアル
C1 ボタン
電源
M10 ポールジョイント取付穴
コントロールダイアル
M14 アクセサリーポート
光ケーブル・アダプター取り付けネジ
シャッターレバー
ギアノブ
対物ガラス
グリップ
M67 アダプター・マウント
ボートロック
ポートマウント
Z50M ポート SB


ストロボ ON/OFF レバー
スラントカバーのみ
マイクロフレックスアーム用 M3 ネジ
マウントベース
チルトモニターレバー
モニターフードレール
バックル
プレビュー・エクステンションキー


MENU ボタン
ON
MOVIE ボタン
AF/MF/AEL 切換レバー
Fn ボタン
コントロールホイール
ディスプレイボタン
ISO ボタン
実行ボタン
連射モードボタン
下を選択
削除ボタン /C2 ボタン

SB ポートの取り付け方 （SB とはスモールバヨネットの略）

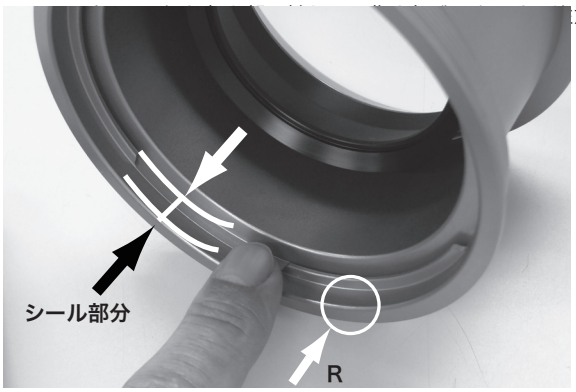
1．使用するポートを用意する (重要)
ポートは専用であるため、設定にないレンズを取り付けると、
- **クイックシューが定位置に入らない**
- **写真の四隅がケラレる**
- **アタッチメントレンズの性能が出ない**
- **写真の周辺が流れる**
- **ポートとレンズの同芯が出ない**
- **ズーム・フォーカス時にレンズが繰り出し対物ガラスに干渉する**
- **カバーのボタンを押しても動作しない、水深が浅くてもボタンがONしてしまう、カメラのモニター表示がスクロースする**

などの現象が出ます

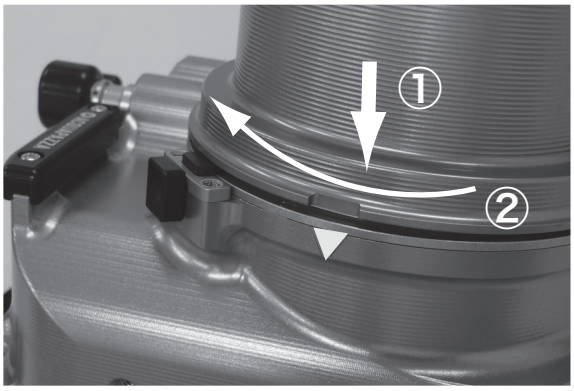
2．ポートマウントの O リングを指でなぞって異常無いことを確認
滑らかな表面であることが正常（以下、詳しくは別紙Oリングマニュアル参照）

3．潤滑を確認（都度グリスアップすることを推奨）

4．ポートの内径 ”シール部分”が清浄であることを確認
（汚れ、異物付着の場合は除去）



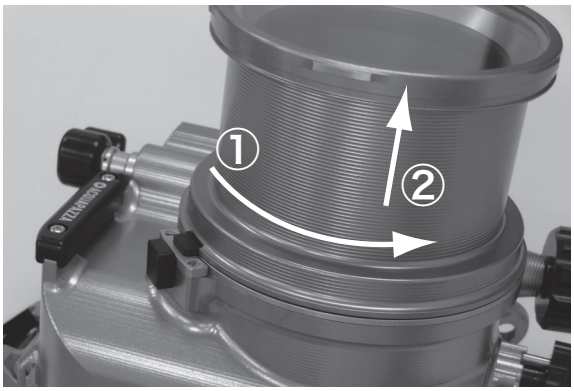
5．ポートを取り付ける
ポート外周の切り欠きと、ボディ下部にある合いマークを合わせる
（上の図の R 部分をポートマウントにぶつけない。R 部分に打痕を付けると O リングに傷をつけることがある）



6．ポート端面をポートマウント端面に軽く押しつけて回す

●時計回りに 20 度ほど回すと、ロックボタンが施錠音を発する

7．外すときは、ロックボタンを押して、反時計回りに 20 度回す



ハウジング使用中の曇りについて

●高温多湿な場所でカメラをハウジングにセッテイングした場合、水中で -10 度くらいの温度差（目安）があるとハウジング内が曇ることがある（加湿器が設置されて室温が高い冬の室内や、梅雨時の蒸し暑い日など）

●ハウジングへカメラのセッテイングは、夏はエアコンの吹き出し前、冬は降水物、強風、ほこりなどの無い屋外にて行う事を勧める

●浸水した後、乾いたように見えても部品の裏面が湿っている場合も曇りやすい

●スポンジが濡れている場合も曇り易いので充分に乾燥させてから使用のこと。

※ 要注意

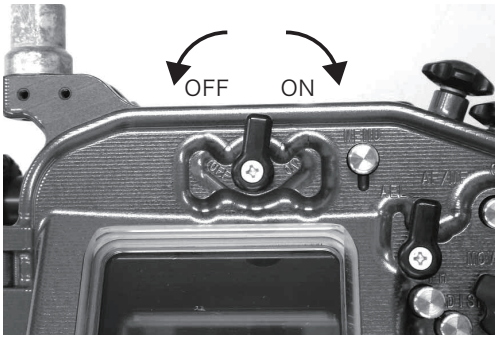
炎天下にカメラを晒した状態でハウジングを開けると、内部の暖められて膨張した空気が逃げる。それを閉めると、高温で希薄になった空気の状態で密閉される。海中でハウジングが冷やされると空気の体積が減ってハウジング内が負圧になり浸水する事がある

ファインダーの取り付け

●ファインダーを付けるとき、”ネジ環”が必要
●締め付けるには”専用工具”が必要
（ボールペン２本等で回す事も可。時々緩んでいないかチェックのこと）
●グリップの代わりに”ファインダー”を持って歩かないこと

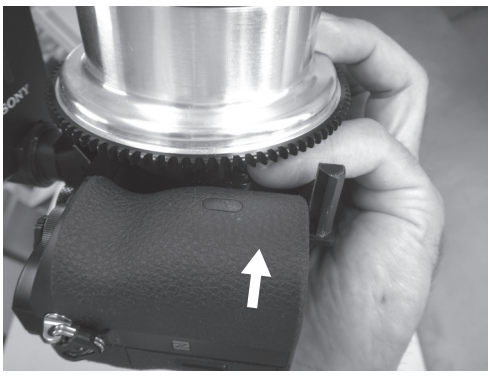
内部ストロボの ON/OFF

1．中央のレバーを右に回すと ON、左に回すと OFF。



カメラの準備

1．バッテリーを入れる
2．メモリーカードを入れる
3．カメラの設定を行う
4．レンズキャップを外し、レンズが汚れていないか確認
・レンズの脱着はギアとカメラの隙間に小指を入れて行う



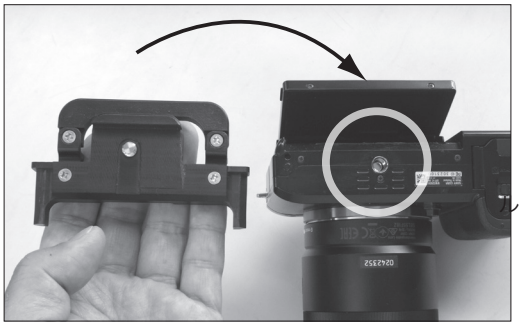
・Finder/Moniter の切り替えは MENU で行う
（カメラの MENU、カスタム設定， 4-2）
（または、C1 ボタンなどに設定しておく）

ハウジングの準備

クイックシュー（カメラをハウジング内に取り付ける機構）

クイックシューを三脚ネジに取り付ける。

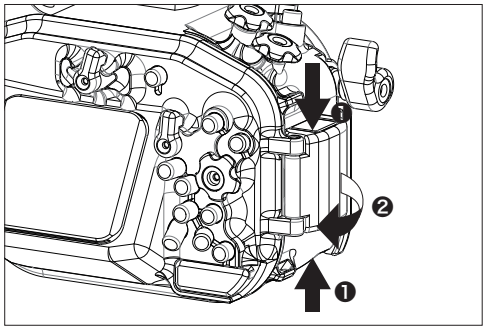
1．机の上など、安定した場所で行う



2．三脚ネジに緩み無きこと。
ボタンの動作が不安定になる原因。

3．カメラの電源を切り、内蔵ストロボが出ているなら収納する。

4．ハウジングを開ける
●❶のバックルのリリースボタンを 2 箇所押しながら❷のバックルを開ける



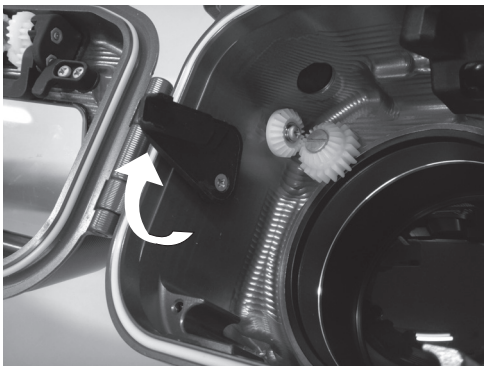
5．O リングのメンテナンスをする

●別紙 O リングメンテナンスマニュアル“O リングの点検“を参照
（浸水のリスクが一番高い部分なので、必ず行う）

6．ポートの対物ガラスの内側・外側が汚れていないか確認

7．カメラの装着

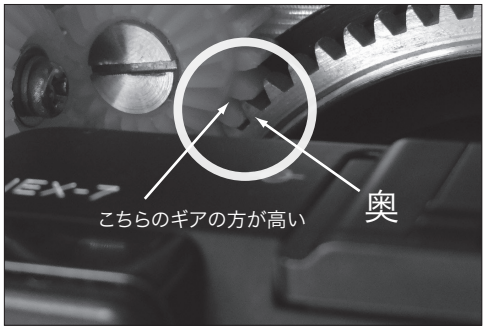
●ハウジング本体の電源 ON/OFF つまみを OFF にする。
●専用アダプター、AMRSI、またはギアをレンズに装着（OP）



❶チルトモニター・アームつまみを左へ引く
（8mm ほどオフセットする）

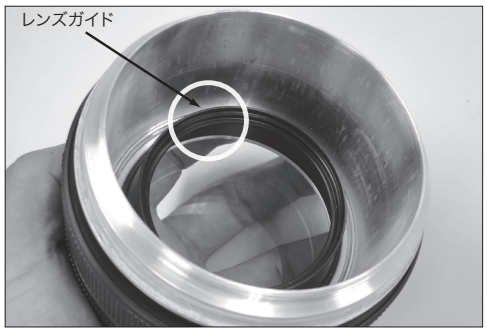
❷チルトモニター・アームを 90 度にする

●ギア装着時、ベベルギアと F・Z ギアが噛んでいる事を確認



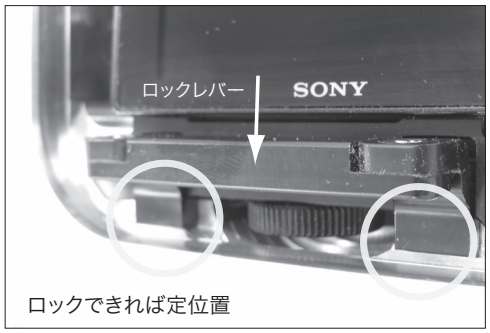
●ポート先端のレンズガイドにレンズ先端が位置決めされる
（クイックシューの定位置から浮いている場合ガイドされていない可能性がある）
（専用ポートなので一部のエクステンション以外、殆どレンズガイドが存在する）

ハウジングの準備



●クイックシューを台座に着座させ、ロックレバーでロックする

●ロックレバーは下端まで確実に押さえる
（摩耗で緩くなったら交換時期）



●チルトモニターアームの爪を 0 度側に戻して、オフセット側から右へ（定位置）に戻す

●チルトモニターアームの爪でチルトモニターをクランプさせる

●任意の角度に出来ることを確認

●カメラが正しく装着されていることを確認

●チルトモニターを 0 度側にする
（スラントカバーを開閉する時は必ず 0 度側にして行う事
チルトモニターがスラントカバー内側に干渉して壊れることがある）

8. カバーを閉める

●閉める直前に O リング表面とシール面に異物が付着していないか確かめる

●必要ならばバックル側のサブ O リングにグリスを塗ること
（O リングがねじれる事があるので潤滑性を持たせる）

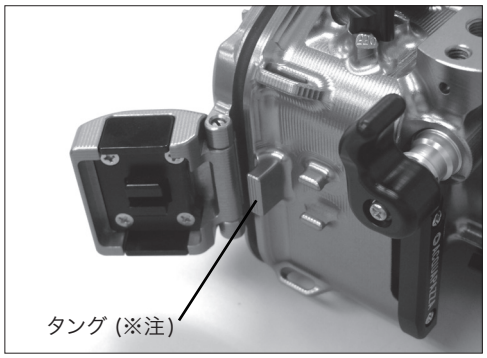
●バックルが”カチッ”と音がして、ロックされたことを確認（重要）

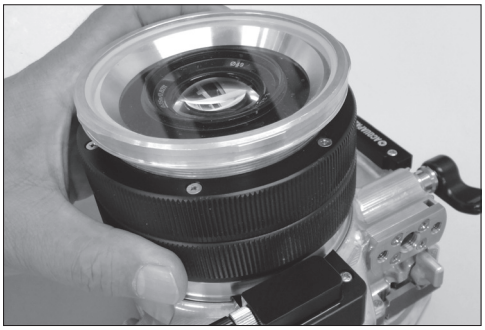
●カバーとボディの間に隙間が無いことを確認（全周）
（異物を噛み込んでいないか確認する）

●バックルのリリースボタンが“バックル内に陥没していない”ことを確認
（正しくロック済であること）

●バックルと、タング(※注) の位置がずれているまま荒っぽく閉めることを続けるとタングの樹脂ガイドやバックルが壊れるので静かに行う
（バックル内側の爪と、ボディ爪のアルマイトは使用により徐々に摩耗する）

●バックルの動きが悪くなったら潮噛みしているので、バックルの問題の部位のみよく水洗いし、充分に乾燥させてから付属のグリスを摺動部につまようじ等で少量塗布して潤滑させる

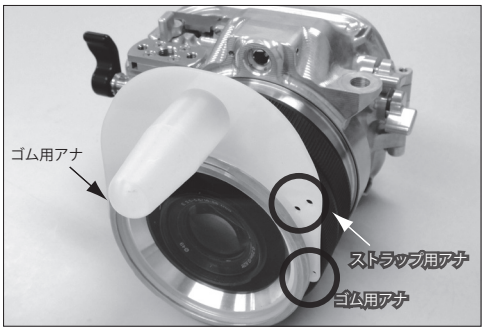




内蔵ストロボで撮影する場合の確認

●拡散板の装着（OP）
（鏡筒脇の溝に嵌め、輪ゴムなどで位置を確定する
16 ポート SB、1855 ポート SB 等の場合）
（紛失防止のため、ストラップ穴に紐で結んでおくことを勧める）

●ストロボをボタンで ON にしてシャッターを押すとストロボが発光する
（目に影響があるので光を直視しない）



外部ストロボを使用して撮影する場合の確認

●光コネクター・アダプター、光ケーブルの装着
（光ケーブル端はコネクター端に軽く突き当てる）

●光コネクター・アダプターを本体に取り付ける時、強く締めると樹脂の M3 ネジが壊れる事があるので、手加減して締める
頻繁に付け外ししないことを勧める
（付属の樹脂ネジを使用のこと。SUSネジは電蝕の可能性がある事、添付のものより長いSUSネジを締込むとハウジングに穴を開ける恐れがあるので決して使用しない。）
（樹脂ネジは強度が少ないため、光ケーブルアダプターに無理な力を加えないこと）

●光ケーブルは分断していないか
（不自然に曲がっている部分は光ファイバーが折れていることがあり、発光を伝達しない）

カメラの電源を ON にした後に

●A、S、P または M モードであること
（動作確認済ストロボ　INON 社 S-2000、D-2000、Z240）

●内蔵ストロボと外部ストロボを ON にして、シャッターを押すと連動するか 1 回確認

●ストロボの ON・OFF

それらが確認できたら準備完了。

台車で移動時の注意

●移動中も日に晒さない（陰を与えて内部温度を上げない）
●振動で、ギアが外れる、カメラなどに不具合が出る事があるので、
ハンドキャリーを 勧める

エントリー直前の確認事項

●フォーカスギア、ズームギアが噛み合っていること
（移動時にレンズとアダプターがずれることがある　）
●シャッターを 1 回切ってみる

ダイビング終了直後のメンテナンス

1. 真水水槽内で他のハウジングにぶつけないよう 5 回ほど上下させその水流ですすぐ

2. 押しボタン内、つまみの首下に水道ホースの口から”緩い水流”で塩気を洗い流す（それを全箇所合計で1分程行う）
（強い圧力で洗浄すると浸水のリスクとなる）

3. 一時間ほど水槽に浸けておく程度で塩気は抜けないので、ダイビングサービスで水槽に浸けるのはエチケット程度である
（エアガンの用意があるならば、緩くエアーをボタン内にあてて塩水を飛ばすと良い。あくまで緩くであり、ボタン内にビシビシとエアーを入れないこと）

4. 自宅に戻ってから常温の十分な真水で、カメラを外してから10時間以上浸け置く事を勧める。
（塩水が残ったまま乾燥すると結晶化し、擦れることで金属部分が傷ついたり、O リングが破損する場合がある）

5. 水から出して水気をとる（タオル等で拭き陰干しする）

6. ポートをボディから外して、水分を取り、ポートOリングにグリスを塗っておく

カメラの取り外し

1. チルトモニターを 0 度側にする

2. ハウジングのカバーを開ける
- バックルのリリースボタンを 2 箇所押しながらカバーを開ける。

3. チルトモニターレバーをモニターから抜いてオフセットし垂直にする

4. 内蔵ストロボをカメラに戻す

5. クイックシューのロックを外してカメラを取り出す
- ロックレバーと、カメラ上部をつまんで引き出す
- 自分自身から垂れる水に注意（髪やスーツ、顔、手からしたたる水）カメラに塩気が付くことを極力避ける

6. 水気を拭き取る
- カバーを開けたことにより、O リング溝と O リングの隙間にあった水が少し飛散する。
飛散したハウジング内の水滴をティッシュなどで拭き取る。
- 対物ガラスの内側に水滴が付いていたら綺麗に拭き取る
（付いたままにするとコーティングがシミになる事がある）

その他のメンテナンス

- ハウジング内部は乾いた布などで拭くのみとする。

- モードつまみ等のゴムの削りカスがたまるので、掃除機を使用するか、ハウジングボディ、カバーを逆さまにして乾いた筆や綿棒で除去する。エアブロー、掃除機の使用も可。

- 有機溶剤（シンナー・ベンジンなど）や炭化水素（アルコールなど）はポリカーボネートと O リングにダメージを与えるので使用しない。

- 内蔵ストロボ窓を掃除する（内・外側共）　窓がくすんでくると光信号が正しく伝わらなくなる。（光ケーブル・アダプターが装着されていると汚れが判りにくい。年一回程外して確認すること）

- 塩の析出があったら拭き取る、粉状になって落下したら掃除機で吸い取る。
- どうしても行う場合は水で洗浄する
（その際、完全に乾かしてから使用しないと曇る。陰干しのこと）

- 塩で囓ったり、ポートなどをねじ込むときに鳴かせない為、メンテナンス時、摺動部に米粒 1/2 程度の添付グリスを塗布することを勧める。

- 光ケーブルアダプターの取り付けねじは樹脂製で弱い
既に締まっているのに更に締めるとネジが折れて光ケーブルアダプターをハウジングに取り付けられなくなるので注意

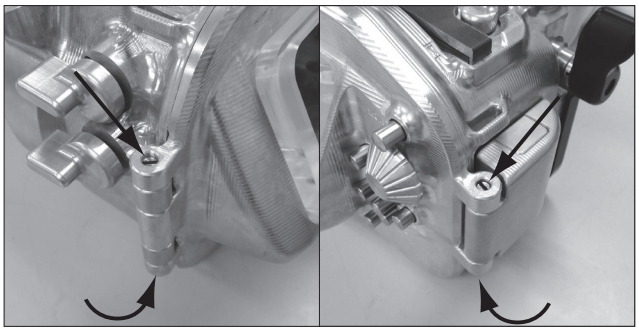
- 塩噛みすると各部の機能が損傷する
カメラ槽の水中で全ボタンを三回ずつ押す。
水道水のホースの弱い水流でボタン内やノブのすき間の塩を洗い流し、可能ならばボタン内をエアブローする、その後水槽に 10 時間以上浸して部品の隙間の塩を抜くこと

ハウジングのネジ緩みはないか

●ヒンジよりもネジが飛び出していないか

●カバーと本体のヒンジ部　マイナスネジ 2 個（上下）

●バックルとカバーのヒンジ部　マイナスネジ 2 個（上下）



●“緩んでいたら“増し締めする。

●半年 / 回ほど確認のこと（使用頻度による）

●増し締めはドライバーを“時計回り”に行う

●間違って緩めない（反時計回りさせない）

●塩噛みしているとネジが抜け易い状況になる

本機の主な特徴

●本機はソニー社製のデジタルスチルカメラα6300 専用のハウジングです。

●本ハウジングにカメラを装着すると、水中（100m 以内）や、雪や雨の
悪天候時、水しぶきのかかるところでも撮影を可能にします
（気温 0 ～ 40 度の範囲外での使用は動作保証しない）

●他に各レンズ用ポートを必要とします。

●コントロールホイールを親指で操作可能（使いやすい星型）

スラントカバー

●チルトモニターを 45 度に傾ける事が可能。操作レバーにより水中で任意に行える

エクステンション・キー（再生ボタン）

●やや奥に位置する再生ボタンを、右端に延長。
オートレビュー ON にしてあると必ず 2 秒再生されて、撮影チャンスを逃がすことがあるので
このレバーにて任意で確認することを勧める

シャッターレバー

●手に馴染むトリガー型を採用

マウントベース

●ダイレクトベース等 5 種類のアダプターを 1 台直接付けられる。　ベースグリップ無しに外付けストロボがハウジングの鏡筒にケラレない位置にセッティングできる
（シユーベースアダプター X-2・マルチダイレクトベース・ダイレクトベース・T スライドベース・M10 ボールジョイント）

M10 ボールジョイント取付穴

●M10 ボールジョイントを用いてストロボやライトを 2 灯に拡張出来る

モニター・フード・レール

●モニターフード（OP）を左側から液晶モニターのポリカーボネート窓の上下にあるレールにスライドさせて装着すると、明るい海でも液晶モニターを視認できる。

●簡易な視度調整になる凸レンズも装備されている
（UN 社　水中モニタリングプロ MARKⅡ UNZ-2603 が装着可能）

内蔵ストロボ ONOFF レバー（ワン・レバー・アクション）

●ソフトキーでないので直感的に操作できる（カメラ装着時に動作を確認のこと）

ストラップ穴 3 箇所

●ストラップ穴が 3 箇所あるので好きな箇所を選べる

●グリップを使わず、上下を繋ぐサイドストラップ状も便利です

■オプション

フリップレンズアダプター M67（OP）

●Z50M ポート、E90M ポートなどの M67 ネジが先端に切ってあるポートに使用可能。

●クローズアップレンズなどを跳ね上げて素通しにできるアダプター。

フリップレンズアダプター P（OP）

●1650ポート、30Mポート、1855ポート等に装着してM67規格のクローズアップレンズ、フィルターが装着可能

●クローズアップレンズなどを跳ね上げて素通しにできるアダプター。

突出型拡散板（OP）

●内蔵ストロボで撮影するときに使用（16 ポート M86、1855 ポート M86 等に装着）

●内蔵ストロボ窓と、拡散筒の位相を合わせること（位相がずれていると拡散板に成り下がる）

M10 ボールジョイント

・M10 ネジを使って簡単にボールジョイントを装着できる。
・全長は 60mm と 80mm の 2 種類がある

ADJ グリップ

●ベース GM とグリップ M を組み合わせた総称。

●グリップは片持ちでも、両持ちにでもできる

●指型がついていないので、やや上、やや下に持つことが出来る

●軽量だが、グリップの曲げ強さはクラス最強。

AMRS M86＊（アムルス、”アクアパッツァ・マグネチック・ロータリー・システム”の略）（OP）

●ズームやフォーカスをマグネットリングによって陸上のカメラのように回せる
ズームレンズは、ズームとフォーカスの 2 連使用が可能

●砂鉄の多い海域では操作しにくい傾向がある（アルマイトも擦れて剥がれる）
（AMRSO 内経が摩耗して穴が開いたら寿命）

本機の主な仕様

●**対象カメラ**	SONY ILCE-6300
●**材質**	耐食アルミ、ポリカーボネート、SUS、POM
●**表面処理**	硬質カラーアルマイト （カラーバリエーション 15 色　ボディ、カバー、バックルのみ着色）
●**耐圧水深**	静圧 100m
●**サイズ**	約 W204*H124*D124（突起部含む）
●**陸上重量**	約 1545g （ボディ、Z12 エクステンション、フロントポートドーム 115 のみ） （本体＋フラットカバー 。カメラとバッテリー含まず）
●**水中重量**	約 275g （上記と、カメラ、Touit2.8/12、バッテリー含む） （スラントカバー）
●**取出口**	ダブル O リング機構
●**使用温度**	0 度～+40 度
●**三脚ネジ**	3 個（ネジ長さ 7.0mm 以下のものを使用のこと）
●**同梱品**	光コネクター・アダプター（ストロボ 2～4 灯に対応） 樹脂ネジ 3 個 光ファイバー用 2 穴ゴムプッシュ 1 個 ハンド・ストラップ 予備 O リング（メイン・サブ・ポート 各 1 本） 専用グリス 保証書 印刷物一式

＊仕様および外観は改良のため予告無く変更することがありますがご了承ください。

＊文中に出てくる AMRS、AMRSO または AMRSI は、INON 社特許の MRS です。

カスタマーサポート

ご使用上の不明な点や技術的なご質問の相談窓口です

info@acquapazza.jp

052-901-8518

月曜～金曜　午前 9 時～午後 5 時

但し 5 月、8 月、年末年始の連続休業日を除く

詳細は弊社ホームページ (http://acquapazza.jp/) 参照のこと

株式会社 山本工業所　アクアパッツァ事業部
〒462-0016　愛知県名古屋市北区西味鋺２－３１８

ACQUAPAZZA